

あなたにヒーローインタビュー

ここから通信

インタビュアー: いやあ、ここまで〇年間生きてきて、この島根県立大学にたどり着いた



あなたは素晴らしい!! 迷った時も自信を無くした時も、あるいはつらい経験もあったと思います。そうした紆余曲折を乗り越えて今ここに立っていらっしやる! これまであなたを支えたモノ、人、言葉を教えてください! また、逆境を乗り越えられたのは、あなたのどのような力が発揮されたのか、教えてください!

さて、インタビュアーにマイクを向けられたあなたは、どのように答えますか?

私だったら…音楽、中学の時の親友、本、祖母の言葉、(良くも悪くも)プライド!他にもたくさんあるように思いますが、最初に浮かんだことはこんな感じです。楽しさを膨らませ辛さを軽減してくれる音楽。思春期のアレコレを共に過ごしてくれた親友。幅広く深い情緒体験と知的好奇心を満たしてくれる本。「今が一番いい時よ」といつも言ってくれる95歳の祖母の言葉。今があることへ感謝の気持ちが湧きます。そして、「恥ずかしくないようにしておこう」などというプライドも自分を頑張らせるのに役立っています。それらを糧として活用できるようになったことが私の力かな?

はい、次のヒーローはあなたです。



幼い頃のあなたを支えたものや思い出はなんですか? 思春期、いつも隣にいた人、モノと言えば? 頑張ってきたこと、自信のある(あった)ことは? あなたの持っているステキな力を教えてください。大きな声で言いつらいなら、マイクをOFFにして内緒話で教えてください。

(文責: 執行)

第9号

(2024.発行)

島根県立大学
松江キャンパス
こころとからだ
の相談室

マイコプラズマ肺炎が大流行!

「マイコプラズマ肺炎」をご存知でしょうか? 肺炎マイコプラズマ (*Mycoplasma pneumoniae*) という細菌に感染することによって起きる呼吸器感染症で、これまで日本ではオリンピックが開催される年に流行を繰り返してきましたが、まさにパリオリンピックが開催された今年は大流行の年となっています。マイコプラズマ肺炎は、小児や若者の罹患が多く、発熱や全身の倦怠感(だるさ)、頭痛、咳などの症状がみられます。特に、咳は乾いた咳(乾性咳嗽)から始まり、次第に痰が絡んだような咳(湿性咳嗽)に変わっていき、熱が下がっても3~4週間程度長引くことがあります。感染した多くの人は軽い症状で済みますが、重症化すると中耳炎や心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発しますので注意が必要です。しかも潜伏期間が2~3週間と長く、いつ感染したのか分かりづらいという特徴があります。症状が出て出歩く患者が多いため、知らず知らずに広めてしまう「歩く肺炎」とも呼ばれています。

マイコプラズマ肺炎の患者数は今年の8月ごろから急増し、現在では統計を取り始めた1999年以降過去最多となっています。通常秋冬に流行する感染症ですので、今後も流行が継続することが考えられます。同時に、インフルエンザも流行する時期になりますので、基本的な手洗いやうがいなどの感染対策のほか、咳による飛沫を防ぐためにも体調が悪いときにはマスクを着用することが大切です。マイコプラズマ肺炎が疑われる場合には早めに医療機関を受診し、抗菌薬などで重症化を予防しましょう。(文責: 前林)

